

令和 4 年度
横浜市立高等学校
及び
併設型中学校
学校関係者評価書

対象校：横浜市立横浜商業高等学校

調査全体の日程

調査日：令和5年3月13日 ～ 3月31日

調査対象校：横浜市立横浜商業高等学校

調査チーム：大澤 正俊 横浜市立大学国際商学部 学部長
小山 巖也 関東学院大学 学長
日比野 幹夫 日本体育大学スポーツマネジメント学部 学部長
木村 大輔 明治学院大学国際学部国際キャリア学科 講師
岩田 力 太田地区町内連合会 会長
大津 幸雄 南区社会福祉協議会 会長
山崎 直宏 南区青少年指導員協議会 会長
岡本 和子 南区更生保護女性会
松下 更 横浜商業高等学校PTA 会長

本校担当者：校長 小間物 晃弘

校長代理 杉浦 正典

副校長 相原 慶

副校長 西岡 健一

教諭 足立 英里佳

教諭 田中 法子

教諭 田村 真

記録等担当者：田中 法子

1 第3期横浜市教育振興基本計画の推進状況

□魅力ある高校教育の推進状況について

《商業科》

- ・資格試験や地域貢献などで、本年度も大きな成果を出されたと感じる。
- ・家庭学習の時間が取れていない生徒が多い点については、先生方の工夫で解決されることを希望する。
- ・資格取得については、前年度比があると成果が判断しやすい。高大・産学連携については、YBC2年以外、具体的に何を実施したのかがほぼ不明であり、成果もわかりにくい。地域連携活動として「課題研究」が位置づけられる理由が不明確なので、説明が必要である。課題については取組・成果から直接出てきているように見えないため、記載の仕方を工夫する必要がある。
- ・職業人・実社会のスペシャリスト育成のための検定取得、高大連携の成果は評価できる。コロナが落ち着けば、地域とのかかわりも復活し、地域に貢献する人材育成も進められると期待したい。
- ・検定上位級取得による専門性の評価は積極的に行い、専門学校との連携により、日商簿記検定や販売士検定合格に向けてよい成果が上がっていると考えられる。
- ・今後の課題である「地域との関わり」についてぜひ検討して頂きたい。防災等の行事でも考えられたらありがたい。

《スポーツマネジメント科》

- ・生徒だけでなく生徒の家族に配慮されている点はとても良い。
- ・「保護者に対して学校の様子が伝わらないことが多い」ことが課題となっているが、SNSを有効に使った保護者との情報共有を検討されてはどうか。
- ・外部との連携による講演会や体験会が成果として進路選択に寄与していることは理解できるが、学びにどう生かされているのかについても記載が欲しい。学級通信やHPによる情報発信の成果についての記載が欲しい。保護者については課題として記載されているが、何がどの程度伝わっていて、逆にどういうことが伝わっていないと認識しているのか、明確にする必要がある。
- ・教育目標に掲げる養成するべき人材に向けて、教職員が一丸となって取り組んでいることは評価できる。特に、通常の授業内容に加えて、生徒の興味・関心や将来の進路を考慮した外部のスポーツ関係者を招聘しての講演や体験会は進路指導を有効なものにしたと考えられる。来年度についても、引き続き同様の取組に期待したい。
- ・生徒、保護者のニーズに加え、社会（世界）のニーズ調査とのマッチングが必要と考える。
- ・スポーツ振興の担い手作りという点で、スポーツ業界の講演・体験会は、具体的なイメージ作りに有効と思われる。その上で、大学進学を希望する生徒が増えているのであれば、受験対策を充実させて頂きたい。
- ・講演会や体験会等により、進路選択の考え方がまとまり、スポーツ業界に携わるという現実的な行いを意識した教育がなされていると考えられる。また、大学進学についても進路実現のために指導されることをお願いしたい。

《国際学科》

- ・コロナ禍で渡航できず、国際学科の生徒にとって辛かった一年だったと思われる。そうした中で、ICTなどを活用された教育の工夫で生徒のモチベーションを上げる努力がされていた様子が窺えた。
- ・取組として、探究学習、ICTの活用、進路の3項目が提示され、それぞれに対応して成果、課題が記載されていてわかりやすい。ICTの活用により、日常的に海外の生徒との交流は可能になったが、対面での交流とのすみわけ、役割分担についても整理されているとなおよい。

- ・国際人育成のためのツールである語学を、外部検定や海外校との交流などで培い、総合型選抜や学校推薦型選抜に生かしている。語学教育が目的となってしまうよう制御するのが難しいと感じる。
- ・「主体的、対話的で深い学び」が意識された教育により、課題発見、問い立て、仮説、検証、発表のプロセスを体感することで、より深い探究をすることの重要性を理解できたこと、今後も続けていってほしい。

2 教育活動の状況

□教育課程、教科指導の状況について

- ・アンケート結果から本年度の教育活動状況もおおむね順調であったと判断する。新教育課程についての検討は各科目で引き続きお願いしたい。
- ・情報やデータ・サイエンスについては、各科で取り組んでいくことになると思われる。新たな教育手法の検討を期待している。
- ・教育課程については、アンケート結果を見る限りでは、三者ともに好意的な反応であるが、各科での教育課程の編成上の特徴、具体的な目玉科目についての記載があると外部の人間にとってはわかりやすい。教科指導については、日常的な業務であることから教員の関心も高く、具体的な記述が多い。
- ・教育課程については、多くの教職員が適切にカリキュラム編成に関わるとともに、当該カリキュラムの運営に努力している様子が窺える。関連アンケートには、生徒や保護者の肯定的な回答が多く見られ、教職員の教育課程に対する取組及びその内容は適切であると評価できる。
- ・「持続可能な社会の創り手」育成における取組（教員の浸透、生徒への波及、保護者の理解拡大を進めて欲しい。階層をまたいだ学び・SELにかかわる「感情」面の育成を進めて欲しい。ChatGPTなどAIの利活用を進めて欲しい。）
- ・アンケート結果は高評価であるが、大学進学希望者への対応が優先課題であり、それに合わせたカリキュラム作りが望まれる。
- ・教職員、保護者、生徒は教育課題の在り方について、ニーズにかなった設定が出来ているという評価であり、今の状態を続けて指導に当たって頂けたらと考える。

□特別活動、部活動の状況について

- ・生徒会活動や委員会活動を主体的に行っていると考える生徒の割合が78%という結果については、昨年度から上昇しており、先生方の取組の結果であると思われる。この質問項目については、商業科、スポーツマネジメント科、国際学科別の結果も気になった。
- ・特別活動が生徒会活動と委員会活動を指すのか、そうではないのかがよくわからないが、そうした活動についての評価が高いことがわかった。それによってどういう成果（主体性、協調性など）が得られたのかの記述も欲しい。部活動についての記述はないように思われた。
- ・新型コロナウイルス感染拡大の中にあって、多くの生徒が特別活動に取り組んでいる点は評価できる。これは、教職員の努力や家庭の理解によるものと思われ、学校内外の関係者の取組は評価されるべきであると考ええる。
- ・学習に偏らない学校生活の充実という点で、部活動・委員会活動はおろそかにできない。アンケート結果は高評価できると思われる。
- ・この活動の評価は、コロナの時を考へても充実した活動が出来ており、工夫をこらした活動は大いに評価されると考える。

□生徒指導、教育相談、進路指導、保健指導、環境美化の状況について

- ・アンケート結果からはこの 5 項目については取り組み内容が適切であり、一定の成果を出されたと思われる。生徒の心のケアなどを中心に、生徒全員が充実した学校生活をできるように引き続きご指導をお願いしたい。
- ・生徒指導・教育相談、進路指導については十分な成果を上げていると思われる。進路については、今後は探究学習との接続も考慮する必要があると思われる。保健指導・環境美化についても適切に行われていると思われる。
- ・なぜ進学するのか、どのようなキャリアを描き、どんな人生を送りたいのかからバックキャストしたライフプランニングをするといい。キャリアは変わる前提で「どう生きるか」を考えさせてほしい。LD などへの配慮としての ICT の活用について、考えて欲しい。
- ・生徒が一人で悩まないような対策がとれていると感じる。進路指導は、大学、専門学校、就職、公務員と多様な選択肢に答えなければならない難しさを感じるが、一定の成果は評価できる。コロナ対応もマンネリ化しがちであるが、継続して取り組んでいる様子で好ましい。
- ・教職員、生徒、保護者の評価で、個々の問題についても概ね実施出来ているとの評価であり、今後もコミュニケーションを大切に充実した学校生活を送れることを希望したい。

3 学校経営の状況

□教育目標等の設定・実施、組織運営、教職員研修の状況について

- ・学校経営の状況について、まだ新型コロナ感染が収まっていない状況を鑑みると概ね順調であったと判断する。創立 140 周年という節目の年にスクールポリシーを作成されたので、今後に期待したい。
- ・組織運営では、商業科経営会議がさらに有益な会議体となることを期待したい。
- ・教職員の働き方改革についても待ったなしの課題であるといえる。引き続き検討をお願いしたい。
- ・スクールポリシーが学校教育目標のことを指しているのか不明だが、そうだとするとグランドデザイン、学校教育目標、各科の教育目標、教育課程の編成、具体的な設置科目などの関係性がもう少し明確に示されるとよい。教員間での連携や研修が行われていること、他方で時間的、業務的制約から課題もあることが分かった。
- ・教育目標が具体的に明文化されているので、アンケート結果にあらわれているのだと感じる。教職員研修は大切だが、ハードワークにならないよう注意が必要だと思われる。
- ・創立 140 周年の年であること、長年受け継がれた歴史と伝統を自然に意識し、生徒や保護者から高い評価が得られていることは大変な成果である。保護者のアンケート結果も良く、「学びを止めない」ことを意識した教育活動には大きな評価が考えられる。今後も続けていってほしい。

□学校経理、施設・設備及び情報の管理の状況について

- ・生徒、教職員の安全確保が最優先であるため、引き続き定期的に施設・設備の安全点検に努め、安心できる環境整備をお願いしたい。
- ・財務面、施設面で課題があることが分かった。
- ・ライフサイクルコストをもとに長期修繕対応書を作成し、計画に沿って改修を行うことが望ましい。
- ・教職員、保護者、生徒それぞれが高い評価を得ている。今後も続けていってほしい。
- ・おやじの会の協力もあり、校地内は美しく保たれている。

□保護者・地域との連携協力、危機管理、情報公開の状況について

- ・保護者との連携が進んでいる様子が窺える。また、地域との交流も概ね行われていると教職員が評価している状況は良い。さらに地域との連携を深化させてもらいたい。
- ・危機管理状況の中で、生徒たちの災害時避難経路の把握については、もし、御校で実施されていないのであれば、毎年、新入生とその保護者を対象に災害時を想定した避難経路での帰宅訓練を実施してはどうか。
- ・保護者と良好な関係が構築されていることが分かった。地域との関係も良好であるように見て取れるが、他方で「1 第3期横浜市教育振興基本計画の推進状況」の商業科の部分で地域とのかわりができていないとの記述もあり、このあたりの整合性については要検討である。情報公開についてはHPの更新頻度が多くなってきていることについては一定の評価がなされているものの、さらなる情報発信の必要性を感じているということが、別の項目での回答と合わせて理解できた。
- ・保護者の指導要領、社会のニーズ等への社会に対するアップデートをしていって欲しい。
- ・コロナ禍で、地域の方との接触が少なくなっていると思うが、今後少しずつ復活して以前の形になればと考える。引き続き情報発信をお願いしたい。
- ・教職員、生徒、保護者における評価は、「十分に実現できている」「おおむね実現できている」「そう思う」「ややそう思う」等々良い評価がなされている。特に問題は感じられない。
- ・学校にはPTA担当職員が複数いるはずなのに、現状はほぼ一人で役員と連絡を取っている。明らかにキャパオーバーで、小さな間違いが目立つ。
- ・下校時、特に冬場は暗いため、一人での行動はなるべく避けるほうが良い。南太田駅で酔った男性にからまれた女子の例がある。指導を徹底すべきである。
- ・学校付近の地域にどのような団体があり、どのような活動をしているのか情報がない。連携のしようがない。

4 いじめへの対応に関する項目

□いじめへの対応について

- ・本項目について、アンケート結果からは十分な対応ができていると判断する。引き続き、学校生活の中でいじめを生み出さない環境づくりと思いやりの心を育む教育に努めて頂きたい。また、いじめを生み出す要因の一つは、日常生活のストレスであると思われる。生徒、教職員、保護者の全て一人ひとりが、日々の生活の中で穏やかでゆとりを持った生活ができるように努めることが、間接的にはいじめの撲滅にもつながると思われる。
- ・いじめへの対応については、真摯かつ慎重に取り組まれている様子が窺えたが、どういった工夫によりどういった成果があったのかはあまりわからなかった。
- ・高校生でもいじめが深刻なのかという疑問もあるが、現実にはあるのであろう。難しい問題だが、少しずつ目をそらさず取り組むしかない。御苦労だと思いが宜しくお願いしたい。
- ・生徒の学校評価で、「学校はいじめや差別を許さない環境作りに努めている」という問いに「そう思う」「ややそう思う」との評価である。今後も続けていってほしい。